

HOT NEWS OF JAPANESE NUTRITION/HEALTH INDUSTRY SEPTEMBER 1-15, 2005

日本コカ・コーラと森永乳業が清涼飲料水に CoQ10 を使用した新商品を発売した。既に数社がゼリー飲料などを上市しているが、いよいよ CoQ10 もコモディティ原料となった。弊社では業界新聞の「ヘルスライフビジネス」2004年9月1日号において、CoQ10 の品不足は国際的な需給バランスに起因するもので、米国では既にコモディティ原料である事を述べた。その後日本では消費者の認知度が一気に上がり、ドラッグストアから商品(サプリメント)が消えた時期もあった。しかし、ここ数ヶ月間は、小売店においても在庫が増えてきており、一時の勢いは無くなったようである。そこで今回の清涼飲料水である。消費者の認知度は高まった為、今後 CoQ10 市場がなくなることは考えられないが、CoQ10 であれば何でも売れる、という時代ではなくなるだろう。情報化の進んだ現在は、ブームを起こす事が簡単であるが、商品寿命も短くなりつつある。独自性のある素材を自ら開発、あるいは発掘し、独占的に販売する事(サントリーのセサミンや麒麟の KW 菌など)が、持続的な差別化を可能にさせる時代になってきたのであろう。ロート製薬が研究開発型ベンチャー企業であるファーマフーズに出資、共同研究体制をとった事はその象徴だろう。健康・栄養産業においても新素材開発・発掘が企業の成長において最重要課題となってきたようである。

NEW PRODUCTS

森永乳業、美容及び関節対応の健康飲料2品を宅配専用で発売

森永乳業は、健康志向の高まりと高齢社会に対応して、今話題の栄養成分を配合した健康飲料「Q10美人」「らくらくサポート」の2品を9月13日より宅配専用商品として新発売する。「Q10美人」には、1本(125mL)あたりコエンザイムQ10を30mg、コラーゲンを1000mg配合し、「らくらくサポート」には、1本(125mL)あたりグルコサミンを1000mg、コンドロイチン100mgを配合している。(9月2日 森永乳業プレスリリース)



明治乳業、ビフィズス菌を増やし、腸内環境を整える特定保健用食品をリニューアル発売

明治乳業は、2001年11月に発売し、2002年11月に特定保健用食品表示許可を取得した「B.G.S.」を、2005年9月13日より「おなか活カタブレット」としてリニューアル新発売する。同商品は、明治乳業独自の素材であるプロピオン酸菌による乳清発酵物を使用したタブレットタイプの商品であり、腸内の善玉菌であるビフィズス菌だけを増やす。明治乳業では、この商品を、今後力を入れていく「プロバイオティクス事業」の一環の商品として位置づけている。(9月6日 明治乳業プレスリリース)



コカ・コーラ、CoQ10 配合の飲むサプリメントを発売

コカ・コーラシステムは、2004年5月に立ち上げた健康事業ブランド「the Wellness FROM Coca-Cola」から、30～50代男女をターゲットとし、1本(100mL)あたりCoQ10 60mgとビタミンC 100mgを配合した「the Wellness FROM Coca-Cola コエンザイム Q10」を9月21日より一都三県のセブンイレブン限定で先行発売する。同商品は、日本コエンザイムQ協会の品質認定マークを取得している。(9月12日 日本コカ・コーラプレスリリース)



麒麟ビバレッジ、アミノ酸「アルギニン」を配合した「麒麟 A1000」を発売



麒麟ビバレッジ株式会社は、エネルギー補給炭酸飲料「麒麟 A1000(エーセン)」を9月27日から新発売する。近年、日常生活の忙しさや不規則な食生活への不安から、健康意識の高まりがみられ、清涼飲料市場においても、手軽に栄養素を補給できる飲料への期待は大きく、飲用シーンも拡大しつつある。「A1000」は、元気系のアミノ酸といわれる「アルギニン」を1本(500ml)あたり1,000mg配合している。(9月13日 麒麟ビバレッジプレスリリース)

カゴメ、トマト6個分のリコピン20mgを配合した「カゴメマトリコピン」でサプリメントへ参入

カゴメ株式会社は、カゴメ初のサプリメント、「カゴメマトリコピン」を2005年9月26日から新発売する。1個のソフトカプセルに、生鮮トマト6個分のリコピン20mgを配合。トマト特有の香味が気にならず、トマトが苦手な方も手軽にリコピンを摂取できる。「カゴメ野菜研究所」は、カゴメが培ってきた野菜についての研究成果を活用し、人々の健康に貢献するヘルスフードの新しいブランドだ。2005年度の売上目標は5000万円。(9月13日 カゴメプレスリリース)



中国製発酵 CoQ10 原料が全国販売開始

世界有数の中国ビタミンメーカーである新昌製薬は、発酵法で製造したCoQ10の本格展開を始めた。日本国内の総販売元は康源。新昌製薬のCoQ10は、厳格なGMP管理の下、微生物による発酵法で製造したCoQ10で、オール・トランス型の純度98.0%以上を規格としている。これまで、特定顧客限定で月当たり約2tを供給してきたが、生産能力が安定してきたため全国販売を開始することとなった。10月には、飲料用の「水溶化CoQ10乳剤10%」を発売する。化粧品用途では、リポゾーム化製品として第一ファインケミカルと提携して販売を行なっている。(9月14日 健康食品新聞)

TECHNOLOGY UPDATES

森永乳業、乳たんぱく「ラクトフェリン」の運動性貧血に対する予防効果を発表

森永乳業は、順天堂大学スポーツ健康科学部澤木啓祐教授の研究グループとの共同研究により、乳由来のたんぱく質ラクトフェリンに、長距離ランナーの運動性貧血を予防する効果があることを明らかにした。

この研究結果は、9月3日、4日に筑波大学で開催される日本陸上競技学会第4回大会で発表する。ラクトフェリンとは、ヒトなどの哺乳類の乳汁の中に含まれるたんぱく質で、特に初乳に多く含まれることから、赤ちゃんの健康に役立つ成分の1つであると考えられている。(9月2日 森永乳業プレスリリース)

COMPANY NEWS

DHC、売上 1000 億円を突破

DHC の 2005 年 7 月期業績が速報値ベースで発表された。売上高は前期比 15.7%増の 1054 億 5500 万円、営業利益は同 15.5%増の 142 億 6900 万円、経常利益は同 19.6%増の 146 億 8800 万円だった。二桁の増収は 3 期ぶり。商品分野別に売上高を見ると、化粧品が前期比 13.9%増の 621 億円、健康食品が同 14.5%増の 375 億 1500 万円だった。前期の輸出合計売上高は、前年からほぼ倍増の 70 億円超となった。化粧品では CoQ10 配合の「Q10 シリーズ」、健康食品では「-リポ酸」「フォースリーン」などの売上が好調だった。(9月8日 日本流通産業新聞)

健康家族、2005 年 8 月期は売上 20%増の 102 億円

「伝統にんにく卵黄」などを展開している健康家族の 2005 年 8 月期決算は、売上高が前期比 20%増の 102 億円、営業利益は同 43%増の 10 億円になる見通しだ。関連会社 2 社の合併が、増収増益に寄与した。商品別売上構成比は、「伝統にんにく卵黄」が 80~90%、黒酢が 10%前後、残りがその他商品。(9月8日 通販新聞)

カゴメ、9月末メドに北米で現地生産の野菜飲料を販売開始

カゴメ株式会社は、9月末をメドに北米にて現地生産した野菜飲料の販売を開始する。カゴメは2年前より野菜飲料を日本から輸出し北米でテスト販売を開始していたが、事業主管を Kagome Inc.に移管し、北米市場に本格進出する。健康意識の高い層をターゲットとする「ヘルスフードチャネル」を中心に取扱いの拡大を図る。北米における野菜飲料事業の 2004 年度の売上実績は 1 億円、2005 年度は 3 億 5000 万円を目標とする。また、2004 年 12 月末時点の取扱店舗数は 1,500 店、2005 年 6 月末時点は 3000 店、今年末には 5,000 店まで拡大を図る。(9月5日 カゴメプレスリリース)

ファンケル、サークルK / サンクスでサプリメントを販売開始

株式会社ファンケルは、全国のサークルK / サンクスにて「ファンケル」のサプリメントの販売を開始する。当初はボトルタイプを中心とした15品の取扱いとなるが、順次商品数を増やし、10月上旬をめぐりサークルK / サンクス限定企画商品2アイテムを含む全30品の品揃えでコーナー展開する。サークルK / サンクスに製品供給することにより、ファンケルのメインターゲットである20代後半~30代前半の女性に加え、30代以上の男性の購入機会拡大を図る。(9月8日 ファンケルプレスリリース)

シュガーレディ本社「食育」教育をスタート

高級冷凍食材を中心に宅配事業を展開するシュガーレディ社は、一定の要件を備えたシュガーレディを対象に、7月から「食育」教育を開始した。食育基本法の施行を受けて、販売員としてシュガーレディに「食育」についての知識を習得してもらい、顧客ニーズに対応して、健全な食生活を実現するためのアドバイスをできるようにすることを目指す。東京・千駄ヶ谷の学校法人「服部学園」で受講し、試験に合格した者には「シュガーレディ食育士」の資格を与える。(9月8日 訪販ニュース)

ロート製薬、機能性食品素材開発のベンチャー「ファーマフーズ」と共同開発・資本提携で合意

ロート製薬株式会社は、機能性食品素材開発のバイオベンチャー企業である株式会社ファーマフーズと共同開発ならびに資本参加に関して合意した。ファーマフーズは、“免疫・老化・神経”の分野を中心に、鶏卵・緑茶・乳酸菌などの身近な食品からの生理活性素材の研究開発を行っているバイオベンチャー企業。資本参加は、2005年9月15日に、ファーマフーズの普通株式1,000株(発行済株式総数に対する割合:2.3%)を第三者割当増資にて引受する予定。今回の締結により、アイケア、スキンケアに続く第3の柱の事業としてロート製薬が注力する機能性食品の開発スピードをさらに加速させる。(9月15日 ロート製薬プレスリリース)

REGULATORY NEWS

サンヘルズ社長に薬事法違反で懲役1年、執行猶予3年の有罪判決

「すべてのガンに有効」など医薬品的効能効果をうたい、健康食品(アガリクス)を販売したとして、薬事法違反を問われているサンヘルズ社長石原林太郎被告に対して、横浜地裁横須賀支部は、8月25日、懲役1年、執行猶予3年の有罪判決を言い渡した。あわせて、同社に対して、罰金100万円を命じた。同社は、2003年1月から2005年4月にかけて、通販で約2300人の顧客に対して「アガリクスK2」を販売し、約4億7000万円の売上をあげたという。サンヘルズは、新聞や雑誌などの広告では薬事法を順守し、違法性が疑われる広告は行なっていなかったが、顧客へ直接送付するパンフレットで「すべてのガンに有効」などうたっていた。この事件のポイントは、広告手法が巧妙で「確信犯」的に薬事法を行なっていたこと、および生命に関わる重篤な疾病である「ガン」への効果をうたっていた点である。(9月1日 通販新聞)

景表法違反でBOWSに排除命令

公正取引委員会は、9月8日、ダイエット食品「BOWS」を製造・販売しているバリアスラボラトリーズに対し、景品表示法違反で排除命令を行なった。問題となった表示は、昨年3月から9月にホームページに掲載していた消化吸収阻止や吸収カロリーの減少等の痩身メカニズム、及び昨年1月から2月にかけて読売・朝日・毎日新聞の広告に記載した約4万1000人のユーザーの満足度調査の結果(74%が満足か、やや満足など)である。昨年春、公取委はこれらの表示に対し、合理的根拠となる資料の提出を要求した。バリアスからは、提出期限内に根拠と主張する資料が提出され、その後も追加資料が提出された。こ

これらの資料を慎重に検討した結果、公取委では資料は表示の合理的根拠とは認められないとして排除命令を行なった。一方、「BOWS」が表示していた吸収阻害メカニズムについては、厚生労働省も調査、作用機序が確認されないことから、昨年 12 月、こうした表示は健康増進法違反となると通知していた。(厚生労働省、9 月 15 日通販新聞)